

英連邦墓地で第 25 回戦没捕虜追悼礼拝開催される

8月3日(土)今年も猛暑の中、横浜市保土ヶ谷区の英連邦軍戦死者墓地において、第25回目の戦没捕虜追悼礼拝が開催されました。泰緬鉄道憲兵隊の通訳だった永瀬隆さん、国際基督教大学の齊藤和明教授、青山学院大学の雨宮剛教授この3人の提案で、1995年8月に第1回の追悼礼拝が行われました。その後この式典は、毎年欠かさず8月の第1土曜日に開催され、今年も第25回目の追悼礼拝となりました。永瀬さん、齊藤先生はすでに他界され、雨宮先生も骨折のため参加が叶いませんでした。しかしその意志は若い世代に引き継がれ、今年も大勢の参加者が集まりました。P研からは笹本代表以下計5人が出席しました。

「英連邦戦没捕虜追悼礼拝」実行委員会の中野信三氏の司会のもと、礼拝の司式は今年90歳を迎えた、日本基督教団牧師関田寛雄先生によって行われました。

追悼の辞で関田牧師は、3月15日にニュージーランドのイスラム教モスクをテロリストが襲撃した事件を取り上げ、「アーダーン首相は自らイスラム教徒の装束を身につけ、テロリストへの非難と共にイスラム教徒の犠牲者たちへの心からなる追悼の言葉を述べられました。それはテロリストの暴力に対する力強い抵抗と共に、ニュージーランドにおける少数者への熱い連帯の表現でありました。私たちはこの政治指導者の姿勢こそ和解と共生の模範であり、国際的に注目すべき事だと考えております。



追悼の辞を述べる
関田寛雄牧師



英国区犠牲の十字架への献花

和解と共生とは単に仲良く並んで座することではありません。それは罪を赦し合い、相互の抱えている困難な課題を共有し、互いに痛み、互いに慰め、互いに課題解決のために共働することによって達成されます。貧困と格差の問題、民族差別、宗教差別など、日本にも世界の諸国にもある課題に共に取り組んで参りましょう。それこそがこの集会の意義に他なりません。」と話されました。

続いて聖フランシスコによる「平和の祈り」が奉げられ、英連邦諸国代表としてカナダ大使館付き武官の海軍大佐メッセージ、主催者代表奥津隆雄氏挨拶があり、賛美歌と関田牧師による祝祷をもって追悼礼拝を終了しました。

その後納骨堂、英国、オーストラリア、カナダ・ニュージーランド、インド・パキスタン区と、順に参加者代表による献花が行われました。東京パイプバンドの立川雅司氏によるバグパイプの演奏が献花を一層印象深いものにしてくれました。



犠牲の十字架への献花を終えた
関田牧師と少女



納骨堂へ献花をおこなう P 研笹本代表
とオランダ大使館員

今年も礼拝プログラムの中に、「捕虜たちの声なき声に耳を傾けて(6)」が綴じ込まれました。これは墓地に埋葬された 1800 人近い数の捕虜の中から、毎年 3 人の捕虜を選んで、そのプロフィールや捕虜となつてからの生活、亡くなった直接の原因などを書いたもので、POW 研究会会員の田村佳子と笹本妙子による長年の研究の成果です。



礼拝を終えて木陰でしばし憩う参加者